

築100年以上 空き家の第2章

尾張版



やまぶき
山本昌代
春陽会

ニュース、情報は下記へ
社会部
052-231-1650・5919
Eメール

shakai@chunichi.co.jp

一宮総局 〒491-0851
一宮市大江1-13-13
0586-72-4545 Fax72-5035
津島通信局
0567-28-2157 Fax28-2153
稲沢通信部
0587-32-8800 Fax23-8035
江南通信部
0587-54-4001 Fax54-9622
蟹江通信部
0567-95-3022 Fax95-3001
春日井支局
0568-81-2036 Fax81-2797
犬山通信局
0568-61-2612 Fax61-2613
小牧通信局
0568-72-1177 Fax72-6530

供養のかけこみ寺

葬儀 供養 樹木葬

縁切り供養

大法寺

気軽にお話ししましょう

0567-28-7319

愛西市稲葉町江頭10番地

樹木葬 大法寺 検索

北名古屋

築100年以上の古民家を改装した北名古屋市の商業施設「つながりの杜」が、空き家となった古民家の活用事例として注目を集めている。全国の住宅総数に占める比率は過去最高の13・8%と、今や社会問題となる空き家。古民家に刻まれた歴史を生かす形で、店舗として再生させ、地域の新たなコミュニティスペースに生まれ変わった。

(児島恵美)

8テナント利用「つながりの杜」

つながりの杜で昨年11月 生まれれた。葉膳やアロマから、温熱&ヒーリングサロンを営む竹家ひとみさん(41)は「古民家のロケーションがすてき。曜日貸しう。契約で、資金面でも気軽に 出店できた」と話す。もと 年に出張営業だったが、店 舗を持ったことで宣伝効果

も生まれた。葉膳やアロマを扱う他のテナントとコラボするなど、思わぬ出会いで事業の幅も広がったという。

つながりの杜は2021年にオープン。築100年以上の趣ある古民家を改装し、月決めや曜日ごとに整

座敷から望む日本庭園と古民家ならではの重厚な構えは、大人の秘密基地のような空間。4月中旬に開かれた見学会では、同じように空き家活用に悩む人やテナントとして入居を希望する人が多く訪れた。

地域のコミュニティスペースに

占める空き家率は11・8%に達しており、倒壊の危険や治安の悪化が懸念される。もともと10年以上空き家になっていたつながりの杜。所有者の兼松稔さん(66)は両親との死別後、残された家の活用法に悩んだ。「自分が生まれ育った家。つぶすのは忍びない」だが、残し方が分からない。解体にも高額な費用がかかり、残すにも固定資産税がかさむ一方だった。そこでレンタルスペースとして整備することを提案したのが友人の岩佐卓さん(57)。現在古民家の再生に携わる岩佐さんは、不動産コンサルタントなどを手がけてきた。2020年からは古民家を商業施設にリノベーションし、賃料収入を収益化するプロジェクト

「古民家プラス」を運営する。岩佐さんは兼松さん宅の改修に着手すると、工事の様子を交流サイト(SNS)で公開。古民家ファンを巻き込み、工事現場の見学会や古民家に残っていた着物や民芸品のギャラリーを開いた。つながりの杜を拠点に「古民家プラス」のサイトは次第に人気を呼び、フェイスブック登録者数は1600人を突破。東海地方を中心に古民家を民泊やテナントとして生かしたい人が集まっている。兼松さんは「大人がくつろげる空間をつくりたかった。眠っていた資産を再活用できたのがうれしい」と話す。岩佐さんは「つながりの杜は今ひとつの点だが、地域のお店を巻き込んでゆるやかなコミュニティをつくりたい」と語った。

つながりの杜(北名古屋 市六ツ師南屋敷741)は通常非公開で、見学は予約制。公式ホームページから申し込める。



所有者の兼松さんと岩佐さん



①今では手に入らない貴重な木材について説明する岩佐さん
②日本庭園も望める。いずれも北名古屋六ツ師の「つながりの杜」で

